

江口隆哉の「基本運動第1課程」の習熟状況に関する研究

－モダンダンス部員を対象とした分析と考察から－

Study on the situation of the mastery of the Takaya EGUCHI's "First course of basic exercise"

－Analysis and consideration on the status
of the Modern dance club members－

坂本 秀子¹⁾ 岡野 友美子²⁾ 光安 知佳子³⁾ 畑 攻⁴⁾

Hideko SAKAMOTO, Yumiko OKANO, Chikako MITSUYASU and Osamu HATA

Abstract

Using as material the "First Course of Basic Exercise" by Takaya EGUCHI who is widely known as the person who established the basis of modern dance, and focusing on his concept and teaching policy of dance, this study aims at analysing and investigating how the dancers managed to master and interiorize those basis and foundation, while at the same time reflecting on how this current situation is likely to influence the way this method of teaching is likely to evolve.

We designed an inquiry chart setting as basic category the 6 themes of Eguchi's "First Course of Basic Exercise" and conducted an analysis and observation of the performance of the Modern Dance Club of our school.

The results of these analysis and observation can be summarized as follows:

1. The situation of the fundamental mastery by the members of the Modern Dance Club of the "First Course of Basic Exercise" became clear.
2. The implication in each one of the themes of the "First Course of Basic Exercise" and the understanding thereof became clear.
3. Bearing in mind 1. and 2. above, the status and orientation of our future guidance became clear. Further, though as a first step for experimental study, we limited our investigative study on the basis and the foundation to a certain number of subjects, it occurred to us that this analysis and observation should be broadened to cover a wider and larger range of dancers.

Keywords : Takaya EGUCHI, First Course of Basic Exercise, Modern Dance Club

I. 緒 言

日本の中におけるモダンダンスをかえりみると、石井漠、高田せい子、江口隆哉等、草創期を負った諸氏の力に支えられつつ、先ずドイツ・モダンダンスの流れを受け入れた。そして自然運動の動きに基礎づけられ、群と空間性を重視するマリー・ヴィックマンの流れが邦正美氏によって鮮明にもたらされた¹⁾。やがていくつかの流派が出現し、それぞれの弟子達が踏襲し枝葉を拡げ、時には影響しあったりして、現在モダン

ダンスは多様な様相を見せている。

モダンダンスは、もともとクラシックバレエに反発して発祥したジャンルなので、「型」から脱却した自由や個性を重視している。バレエや日本舞踊などのように、型を重んじるジャンルでは、ある程度共通した基礎・基本のとらえ方があるが、モダンダンスにおいては、そのような経緯から、今日においても考え方や指導法も一人一人異なるため、必ずしも基礎基本が明確ではない部分が多いという特色がある。たとえば、クラシックバレエの基礎をモダンダンスの基礎と捉える者もいれば、独自のメソッドを開発して体系化し、基礎・基本と唱える者もいるというのが現状である。しかしながら、モダンダンスも身体運動の一種であり、運動学的に効率よく身体を使うことは永遠の課題とさ

1) 日本女子体育大学 (准教授)

2) 日本女子体育大学 (助手)

3) 我孫子二階堂高等学校 (非常勤講師)

4) 日本女子体育大学 (教授)

表1 「基本運動第一課程」(1番～6番)の動きの解説

1 番	脚の基礎運動	床を押してしっかりと立ち、腰の中心を意識して脚の基礎練習をする
	Body の運動	Body (胴体) は適度に水を入れたビニール袋をイメージして動く
	脱力運動	両足でしっかり床を押し、上体を解緊する
2 番	振る運動	全身の働きで腕を大きく振る
	回す運動	回すときは一度肩を解緊して落とし、その反動を利用する
	弾む運動	全身でゴムのように力強く弾む
3 番	歩く運動	歩く運動を変化・発展し、自由自在に身体を移動する
	回旋運動	関節の可動領域を意識しながら大きく動く
	回転運動	軸が崩れないように注意し、回る運動とその変化も練習する
4 番	波状運動・蛇動運動	自然体としての波、または蛇のように動く。肩や胸を意識して円を描く
	振じる運動	体のバランスをとりながら、上体を振じる
	腰の転移	強く踏み込み、空中で軸を垂直に保ち、空中で腰の向きを変える
5 番	リズムカルに跳ぶ運動	ツーステップ、ホップなど足で強く床を蹴り、全身をゴムまりのように弾ませる
	走る運動	後ろ足で強く床を蹴り、腰を押し出すようにして走る
	大きなジャンプ	空中で両足を開き、ダイナミックに跳躍する
6 番	ワルツステップ各種	膝・足首を柔らかくして、左右へ優雅に脚を進める
	柔軟性運動	大きくゆったりと反って踵にタッチしたり、頭とつま先を近づけたりする
	バランス系の運動	片足で立ち、上体を倒し脚を上げた状態で手を動かす

れている。これが叶えば、動きの完成度が高くなるだけでなく、技の向上、ケガ防止、高齢期になっても持続可能、そして生涯ダンスにも通じるなど多くの利点が望めるはずである。

モダンダンスは、踊り手独自の舞踊メソッドや舞踊理念がそのまま動きに投影され、他と全く異なる独特な動きを生み出すことが特徴とされている。「型にとられない自由な動き」を強調するモダンダンスだが、基礎や基本は重要だと考えられる。

日頃、学生達が多くの時間を費やして練習はするが、効果的なステップアップに繋がっているとは言い難い現状も見られることから、今こそ改めて、モダンダンスにおける基礎・基本の在り方を追求していく必要があると考えている。

舞踊の技術について松本千代栄は「舞踊の技術は科学技術とは異なり、常に、人間の存在、その心身性の原点として成分化する技術として独自性をもつ。即ち、多様な文化・発展は、踏み越えながらも、捨て去られるものではなく、累積されるものとして発展し、常に「生」の心身を核とし、そこに回帰する技術とみなされよう」⁹⁾と述べている。

また金井芙三枝は、「ダンスは身体育成が一番大切で

あり、自由自在に動くことができるように、そしてこのびのびと動くことができるように常に訓練していなくてはいけない」⁹⁾と述べている。

本研究では、多くの舞踊家を育成してモダンダンスの礎を築いたことで広く知られている舞踊家 江口隆哉の「基本運動第1課程」(表1)を取り上げ、踊り手がこの基礎・基本をどのように習熟し、内面化しているのかを分析、検討すると共に今後の指導の在り方を考察するものである。

最近の江口の研究においては、桑原和美の「江口隆哉論」(1982年)、また江口の基本運動に関する先行研究については、光安知佳子・島内敏子の「江口隆哉のモダンダンス ―基本運動をとりあげて―」(2013年)がみられる。しかしながら、これらの研究は、江口のダンス観や舞踊創作法に関する論文であり、本研究が着目をする「基本運動の習得」や「演技者及び実践者の内観的な状況」を分析し、その結果に基づいた論議が見られない状況であり、本研究に踏み切った次第である。

江口隆哉は理論と実践を両立し、多くの舞踊家を育成して現代舞踊の礎を築いたことで広く知られている。また現代舞踊協会の会長も歴任するなど、バイオ

ニア的存在としても名高い。舞踊教育者でもあり、プロの舞踊家でもあった江口は、舞踊界に大きな功績を残した逸材であった。また、日本女子体育大学の舞踊教育の根幹を築き、同大学モダンダンス部の指導も長期に亘り担当していたことは有名である。舞踊教育者として多くの功績を残した江口の基本運動とは、基本となる動きを系統別に整理したものである。第1課程(全6曲)と表現に主眼をおいた第2課程(全4曲)から成り、初心者にもわかりやすく、また繰り返し練習できるように工夫されたものである。第2課程は、表現練習を大切にしているので、心の動きも同時に訓練できるように創られている。

基本運動の振付は1950年前後で、音楽はビクターよりSPで、後にLPでも発売されており、現在でも中学校、高校の学校教育現場で初心者の基本練習に活用されている。また、上級者にとっても、技術をもう一度洗い直すために活用されており、今日においても広く用いられている。

本研究は、部創設以来、この江口の基本運動を基本練習にし、豊富な経験を有する日本女子体育大学モダンダンス部の部員を対象とし、調査・分析・考察をとおして、以下のことを明らかにすることを目的とした。

1. モダンダンス部員の「基本運動第1課程」の基本的な習熟状況を明らかにする。
2. 「基本運動第1課程」の各曲に対する取組みの状況及び、理解度を明らかにする。
3. 上記1、2の結果を踏まえて、今後の指導の在り方や方向性を検討する。

II. 方 法

1. 調査項目の設定

調査項目は、部員のダンス特性と基本特性を中心に設定をした。ダンス特性は、専門舞踊ジャンル、経験年数、活動頻度、経験ジャンルを設定した。基本特性は学年と過去のダンス・スポーツ経験を中学・高校別に聞き、部活動に関する質問については、満足度、達成感等、計8項目を設定し5段階評価(非常に思う、思う、どちらともいえない、思わない、全く思わない)とした。基本運動に対する意識については、「難しいと思う部分」及び「実施して強化された面」のカテゴリーを設定し、回答を求めた。さらに、基本運動(1～6番)それぞれの曲に対しては、以下の9つの質問項目を設定し、4段階評価(非常に思う、思う、思わない、

全く思わない)とした。

＜基本運動 1番＞の場合

- 1) あなたにとって必要性を感じる。
- 2) 動きの特性を理解できていると思う。
- 3) 難しいと思う。
- 4) 作品づくりに必要だと考える。
- 5) 基本運動1番の動きは、身体づくりに役立つ。
- 6) 基本運動1番を通して心の在り方に変化が見られた。
- 7) 正確に踊れていると思う。
- 8) 将来、指導者になった場合、基本運動1番を使用しようと思う。
- 9) 今後も続けて基本運動1番を踊りたいと思う。

2. 調査の実施および調査対象

調査対象は、本学モダンダンス部学生(2年生9名、3年生12名、4年生10名)31名とし、1年生は、入部した直後なので、調査対象から除外した。調査は平成25年5月24日に実施した。

III. 結 果

1. モダンダンス部員のダンス特性について

対象としたモダンダンス部部員のダンス特性は、表2に示したとおりである。専門舞踊ジャンルは、93.5%がモダンダンスと回答しており、次にクラシックバレエ、モダンバレエ、コンテンポラリーと続いた。専門だけに偏らず、他のジャンルも多岐にわたって経験していることを示している。専門ジャンルの経験年数については、5年～14年の間に集中しており、54.9%となっている。活動頻度は、80.6%が週6回であり、休みなしで毎日活動している部員は16.1%であった。かなりのダンス漬けの生活であることを示している。また、過去に経験したことのある舞踊ジャンルについては、ジャズダンス(64.5%)、モダンダンス(61.3%)、クラシックバレエ(61.3%)、コンテンポラリー(51.6%)のいずれもが過半数を越えていた。モダンダンスだけに限らず、多様なジャンルを経験していることを示している。

表3は、対象部員の過去のダンス・スポーツ経験についての分析結果である。運動部に所属していた者は中学では58.1%、高校では77.4%で、過半数を示した。

表2 調査対象者のダンス特性（複数回答）

基本特性	N=31	f	%
専門ジャンル	クラシックバレエ	6	19.4
	モダン・バレエ	5	16.1
	モダンダンス	29	93.5
	コンテンポラリー	4	12.9
	ヒップホップ	2	6.5
	ジャズダンス	3	9.7
	その他	1	3.2
経験年数	2年	4	12.9
	3年	2	6.5
	4年	1	3.2
	5年	3	9.7
	6年	3	9.7
	7年	3	9.7
	10年	4	12.9
	14年	4	12.9
	15年	2	6.5
	16年	1	3.2
	17年	2	6.5
	18年	2	6.5
活動頻度	週6回	25	80.6
	毎日	5	16.1
過去に経験のあるジャンル	クラシックバレエ	19	61.3
	モダン・バレエ	8	25.8
	モダンダンス	19	61.3
	コンテンポラリー	16	51.6
	ヒップホップ	12	38.7
	ジャズダンス	20	64.5
	その他	4	12.9

その内容はダンスに限らず多種多様であることを示している。中学校ではダンス部、創作ダンス部に所属している者は、12.9%にとどまり、高校では54.8%と半数以上の者がダンス部に所属していた。また、中学では学外のレッスン・稽古場に通っていた者が80.6%と多く、高校では58.1%という結果である。その内容は、中学ではクラシックバレエが25.8%、ダンス16.1%、ジャズ12.9%と続いた。高校でもクラシックバレエが19.4%、モダンダンスが16.1%、ダンスが12.9%とほぼ同様の結果である。学外の施設で、多様なジャンルを経験していたことを示している。

表4は、現在の部活動に関連する項目の分析結果である。「仲間と充実した時間を過ごせている」と「負けず嫌いの方である」が共に、5段階評価で4.32となっており、相手と自分の関わりを大切にしていることを

表4 調査対象者の現在の部活動の評価

	全体	2年生	3年生	4年生
N=31	M	M	M	M
練習内容に満足をしている	3.77	3.00	4.25	3.90
練習後、達成感を感じる	3.71	3.00	4.08	3.90
仲間と充実した時間を過ごせている	4.32	3.56	4.67	4.60
良きライバルがいる	4.13	3.78	4.42	4.10
負けず嫌いの方である	4.32	4.22	4.42	4.30
リーダーシップがある方だ	2.97	3.00	2.92	3.00
後輩の面倒見が良い	3.52	3.44	3.42	3.70
部活動の仕事は率先して行う方だ	3.65	3.67	3.67	3.60

示している。学年別に見ると、2年生から3年生にかけて数値が上昇しているが、3年生から4年生にかけて下降している。なお、練習後の達成感についてもほぼ同様の結果を得た。

一方、「リーダーシップ」、「後輩の面倒見」「部活の仕事の率先度」に関しては、全体でみると他の項目より低い結果となった。また、「部活動の仕事の率先度」については、どの学年もほぼ同じ数値となった。部の仕事については、どの学年も自分が率先していると思っていることが明らかである。

2. 基本運動に対する意識について

表5は、モダンダンス部員が、日頃の反復練習を通して感じている基本運動の分析結果である。「難しいと思う動き」についての結果を示しているが、難しい理由については基本運動1番は「脱力運動」が48.4%、運動基本2番は「振る運動」が45.2%、基本運動3番は「回旋運動」が41.9%、基本運動4番は「波状運動」が61.3%、基本運動5番は「大きなジャンプ」が51.6%、基本運動6番は「バランス系の運動」が51.6%とそれぞれ多く、メインとなる動きを難しいと感じている結果である。メインの動きは次の通りである。1番「脚の基礎運動、Bodyの運動、脱力運動」¹⁾、2番「振る運動、回す運動、弾む運動」²⁾、3番「歩く運動、回旋運動、回転運動」⁷⁾、4番「波状運動・蛇動運動、振じる運動、腰の転移」²⁾³⁾⁴⁾⁶⁾、5番「リズムカルに跳ぶ運動、走る運動、大きなジャンプ」⁸⁾、6番「ワルツステップ各種、柔軟性運動、バランス系の運動」⁵⁾。図1、2、3はその実際画像の一部である。

次に表6は、全6曲を通じて強化されたと思う項目について分析結果である。「基礎技術向上」が93.5%と最も多く、ついで、「筋力アップ」51.6%、「持久力」41.9%と続いている。また、「忍耐力向上」、「向上心」

表3 調査対象者の過去のダンス・スポーツ経験

中学時代				高校時代		
N=31		f	%	f	%	
運動らしいことを授業以外行っていなかった		3	90.3	3	90.3	
運動部に所属していた		18	58.1	24	77.4	
所属していた運動部	ソフトテニス	5	16.1	ダンス	17	54.8
	陸上	3	9.7	創作ダンス	1	3.2
	ダンス	3	9.7	空手	1	3.2
	創作ダンス	1	3.2	バスケ	1	3.2
	卓球	1	3.2	チアリーダー	1	3.2
	バレーボール	1	3.2	器械体操	1	3.2
	バスケ	1	3.2			
	剣道	1	3.2			
	新体操	1	3.2			
	水泳	1	3.2			
学校以外のサークルやクラブに所属していた		9	29.0	5	16.1	
所属していたサークル・クラブ	モダンダンス	2	6.5	ダンス	1	3.2
	ダンス	1	3.2	ジャズ	1	3.2
	Jazz スタジオ	1	3.2	クラシックバレエ	2	6.5
	クラシックバレエ	3	9.7			
	剣道	1	3.2			
レッスン・稽古に通っていた		25	80.6	18	58.1	
レッスン・稽古に通っていた種目	モダンダンス	3	9.7	モダンダンス	5	16.1
	ダンス	5	16.1	ダンス	4	12.9
	Jazz スタジオ	1	3.2	Jazz スタジオ	1	3.2
	ジャズ	4	12.9	ジャズ	2	6.5
	クラシックバレエ	8	25.8	クラシックバレエ	6	19.4
	エアロビクス	1	3.2	エアロビクス	1	3.2
	競技エアロ	1	3.2	コンテンポラリー	1	3.2
	剣道	1	3.2	モダンバレエ	1	3.2
	モダンバレエ	1	3.2			
	社交ダンス	1	3.2			
自由時間に個人的に運動していた		6	19.4	9	29.0	
自由時間に運動していた種目	モダンダンス	2	6.5	モダンダンス	2	6.5
	ダンス	1	3.2	ダンス	1	3.2
	ランニング	1	3.2	創作ダンス	1	3.2
	クラシックバレエ	1	3.2	ランニング	2	6.5
	競技エアロ	1	3.2	クラシックバレエ	1	3.2
	バスケ	1	3.2	バスケ	1	3.2

は共に38.7%で、メンタル面に関連した回答も日頃の自分自身の観察と比べ、比較的多く見られる結果となっている。その一方で、「構成力向上」「発想力強化」などの創作力に関わる項目は、あまり意識されていないという特徴的な結果を示している。

表7は、「基本運動第1課程」の各曲に関する反応に

ついてまとめたものがある。ここでは、その程度を4段階で質問したものを、更に明確化するために「はい」「いいえ」の2段階評価でまとめあげ、その傾向をみた結果である。全曲(6曲)すべてにおいて、「必要性を感じる」と回答した者は100%であった。また、「動きの必要性を理解している」「身体づくりに役立つ」と回

答した者も各曲ともに、ほぼ100%に近い結果であり、非常に高い意義を見出して前向きに取り組んでいることを示す結果である。また、「正確に踊れていると思う」

表5 調査対象者の「基本運動第一課程」
(1番～6番)の各曲の難易度

N=31		f	%
1番	脚の基礎運動	4	12.9
	Bodyの運動	4	12.9
	脱力運動	15	48.4
	無回答	8	25.8
2番	振る運動	14	45.2
	回す運動	5	16.1
	弾む運動	4	12.9
	無回答	8	25.8
3番	歩く運動	2	6.5
	回旋運動	13	41.9
	回転運動	8	25.8
	無回答	8	25.8
	波状運動・蛇動運動	19	61.3
4番	振じる運動	3	9.7
	腰の転移	4	12.9
	無回答	5	16.1
5番	リズムカルに跳ぶ運動	3	9.7
	走る運動	6	19.4
	大きなジャンプ	16	51.6
	無回答	6	19.4
6番	ワルツステップ各種	6	19.4
	柔軟性運動	4	12.9
	バランス系の運動	16	51.6
	無回答	5	16.1

各曲の中で一番
難しいと思う動き

と回答する者は70%から80%にとどまり、動きの理解はできているものの、現段階では、必ずしも理想どおりに実施できていないという自己の振り返りがなされていることが推測される。

また、「指導者になったら使用しようと思うか」「今後も続けて踊りたいと思うか」の問いについては、「はい」と回答した者は80～90%という結果であり、概ね肯定的であり、継承する意思が高い結果を示した。

表6 「基本運動第一課程」(1番～6番)を通じて強化された能力(複数回答)

N=31	f	%
基礎技術向上	29	93.5
柔軟性強化	11	35.5
応用力向上	10	32.3
筋力UP	16	51.6
演出力向上	1	3.2
持久力向上	13	41.9
積極性の向上	2	6.5
観察力向上	8	25.8
達成感	6	19.4
忍耐力向上	12	38.7
分析力強化	6	19.4
構成力向上	0	0.0
向上心	12	38.7
発想力強化	0	0.0
イメージを掴む	7	22.6
動きづくり	8	25.8
その他	0	0.0

注) 回答の多い項目を強調下線で表示

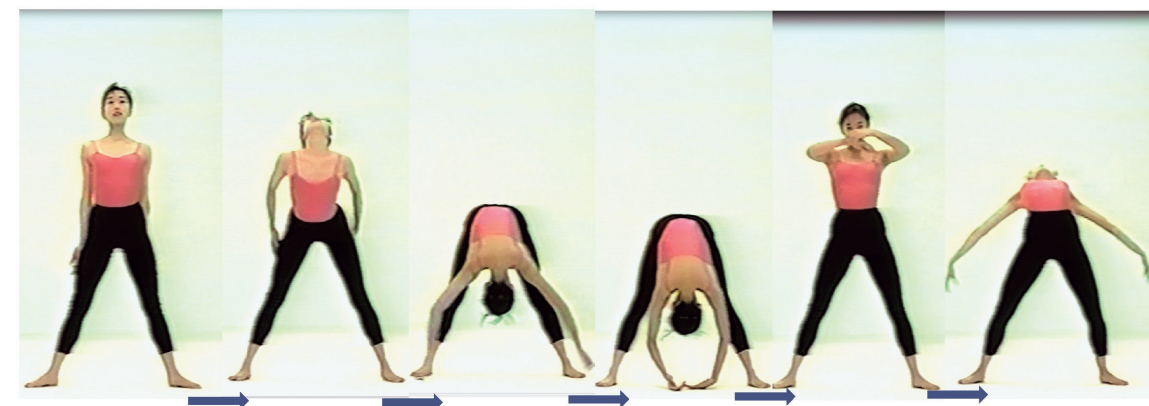


図1 脱力運動

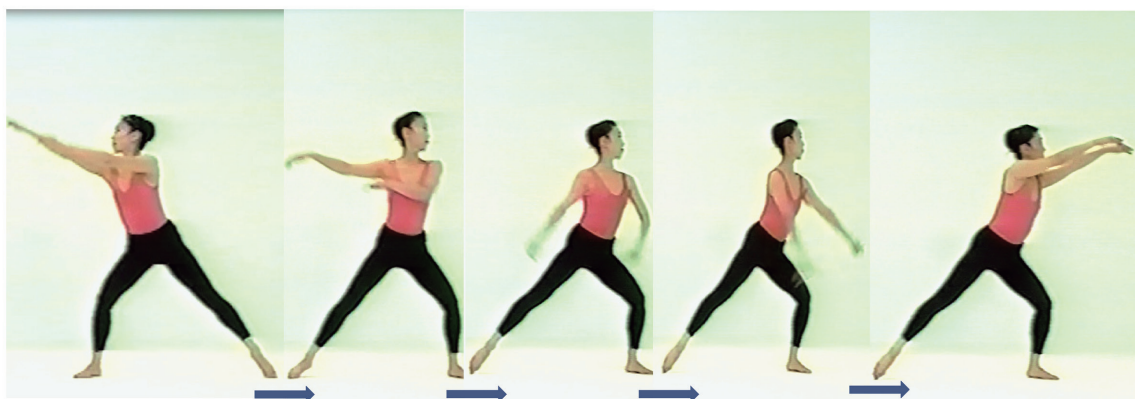


図2 振る運動

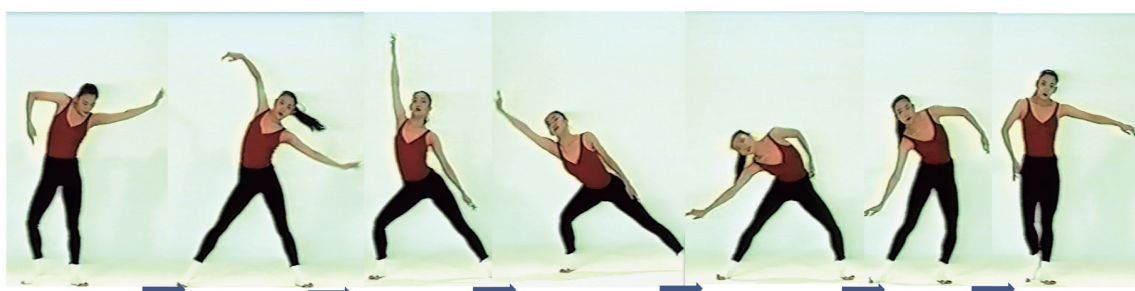


図3 波状運動・蛇動運動

IV. 考 察

1. 基本運動の基本的な習熟状況について

基本運動の各曲の難易度については、その練習曲の各課題を意識しており、難しいと認識していることがわかった。また、日頃、指導者から繰り返し注意され、動きの重要性もよく自覚していることを示す結果であった。

表8は、「難しいと思う動き」を学年別に分析した結果である。基本運動3番「回旋運動」と4番「波状運動・蛇動運動」(図3)、5番「大きなジャンプ」に関しては、どの学年も難しい動きだと認識していることが明らかになり、たくさん練習しても習得しきれない難しい動きであると捉えている。また、1番「脱力運動」(図1)と2番「振る運動」(図2)は、2年生と4年生は半数以上の者が難しいと回答している。しかし、3年生は難しいと捉えていないが4年生になって、再び難しく感じていることが考えられる。このようにダンスにおいては、習得できたと思っても、ある時期に再び難しく感じ、また練習し直す……ということを度々経験するものである。習熟のプロセスで、繰り返

し練習する上での「変容の繰り返し」の部分を示しているものと考える。

一方、1番「Bodyの運動」や6番「バランス系の運動」は、上級生になるにつれて難しく感じている者が増えている。動きの難しさを実感した結果といえる。また、6番「ワルツステップ各種」は、上級生になるにつれて難しく感じている者が減少した。脚の運び方を覚えれば習得できるので、難しく感じている者が減少したものと考えられる。

表9は、難しいと思う動きを経験別に示した結果である。基本運動1番「脱力運動」と4番「波状運動」、5番「大きなジャンプ」については、経験の差に関係なく難しく回答している。脱力運動と波状運動は、江口ダンスの特徴といえるメソッドであり、体得するのにかなりの時間を要するので、このような結果になったものと考えられる。または、日常の練習の中で繰り返し指導者から指摘を受けていて、難しく感じていたのかもしれない。

基本運動2番「振る運動」と基本運動3番「回旋運動」は、経験年数5年～10年のグループが特に高かった。「振る運動」は振り子の運動で、力を抜くことや体

表7 「基本運動第一課程」 1番～6番についての取組状況及び難易度

	N=30	全体				2年生 N=9				3年生 N=11				4年生 N=10			
		はい		いいえ		はい		いいえ		はい		いいえ		はい		いいえ	
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
1番	必要性を感じる	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	動きの特性を理解できている	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	難しいと思う	24	80.0	6	20.0	7	77.8	2	22.2	11	100.0	0	0.0	6	60.0	4	40.0
	作品づくりに必要だと考える	23	76.7	7	23.3	7	77.8	2	22.2	10	90.9	1	9.1	6	60.0	4	40.0
	基本運動1番の動きは、身体づくりに役立つ	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	基本運動1番を通して、心の在り方に変化がみられた	17	56.7	13	43.3	5	55.6	4	44.4	7	63.6	4	36.4	5	50.0	5	50.0
	正確に踊れていると思う	21	70.0	9	30.0	7	77.8	2	22.2	7	63.6	4	36.4	7	70.0	3	30.0
	将来、指導者になったら使用しようと思う	26	86.7	4	13.3	8	88.9	1	11.1	10	90.9	1	9.1	8	80.0	2	20.0
2番	今後も続けて基本運動1番を踊りたいと思う	26	86.7	4	13.3	9	100.0	0	0.0	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	必要性を感じる	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	動きの特性を理解できている	29	96.7	1	3.3	8	88.9	1	11.1	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	難しいと思う	26	86.7	4	13.3	8	88.9	1	11.1	11	100.0	0	0.0	7	70.0	3	30.0
	作品づくりに必要だと考える	24	80.0	6	20.0	7	77.8	2	22.2	9	81.8	2	18.2	8	80.0	2	20.0
	基本運動2番の動きは、身体づくりに役立つ	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	基本運動2番を通して、心の在り方に変化がみられた	23	76.7	7	23.3	8	88.9	1	11.1	9	81.8	2	18.2	6	60.0	4	40.0
	正確に踊れていると思う	24	80.0	6	20.0	8	88.9	1	11.1	8	72.7	3	27.3	8	80.0	2	20.0
3番	将来、指導者になったら使用しようと思う	25	83.3	5	16.7	9	100.0	0	0.0	9	81.8	2	18.2	7	70.0	3	30.0
	今後も続けて基本運動2番を踊りたいと思う	25	83.3	5	16.7	8	88.9	1	11.1	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	必要性を感じる	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	動きの特性を理解できている	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	難しいと思う	24	80.0	6	20.0	7	77.8	2	22.2	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	作品づくりに必要だと考える	22	73.3	8	26.7	7	77.8	2	22.2	9	81.8	2	18.2	6	60.0	4	40.0
	基本運動3番の動きは、身体づくりに役立つ	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	基本運動3番を通して、心の在り方に変化がみられた	25	83.3	5	16.7	8	88.9	1	11.1	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
4番	正確に踊れていると思う	24	80.0	6	20.0	7	77.8	2	22.2	8	72.7	3	27.3	9	90.0	1	10.0
	将来、指導者になったら使用しようと思う	26	86.7	4	13.3	9	100.0	0	0.0	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	今後も続けて基本運動3番を踊りたいと思う	24	80.0	6	20.0	9	100.0	0	0.0	9	81.8	2	18.2	6	60.0	4	40.0
	必要性を感じる	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	動きの特性を理解できている	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	難しいと思う	28	93.3	2	6.7	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	8	80.0	2	20.0
	作品づくりに必要だと考える	26	86.7	4	13.3	7	77.8	2	22.2	11	100.0	0	0.0	8	80.0	2	20.0
	基本運動4番の動きは、身体づくりに役立つ	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
5番	基本運動4番を通して、心の在り方に変化がみられた	24	80.0	6	20.0	7	77.8	2	22.2	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	正確に踊れていると思う	21	70.0	9	30.0	6	66.7	3	33.3	7	63.6	4	36.4	8	80.0	2	20.0
	将来、指導者になったら使用しようと思う	26	86.7	4	13.3	9	100.0	0	0.0	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	今後も続けて基本運動4番を踊りたいと思う	25	83.3	5	16.7	8	88.9	1	11.1	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	必要性を感じる	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	動きの特性を理解できている	29	96.7	1	3.3	8	88.9	1	11.1	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	難しいと思う	27	90.0	3	10.0	7	77.8	2	22.2	11	100.0	0	0.0	9	90.0	1	10.0
	作品づくりに必要だと考える	28	93.3	2	6.7	8	88.9	1	11.1	11	100.0	0	0.0	9	90.0	1	10.0
6番	基本運動5番の動きは、身体づくりに役立つ	28	93.3	2	6.7	7	77.8	2	22.2	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	基本運動5番を通して、心の在り方に変化がみられた	22	73.3	8	26.7	7	77.8	2	22.2	9	81.8	2	18.2	6	60.0	4	40.0
	正確に踊れていると思う	25	83.3	5	16.7	8	88.9	1	11.1	8	72.7	3	27.3	9	90.0	1	10.0
	将来、指導者になったら使用しようと思う	26	86.7	4	13.3	9	100.0	1	0.0	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	今後も続けて基本運動5番を踊りたいと思う	25	83.3	5	16.7	8	88.9	1	11.1	10	90.9	1	9.1	7	70.0	3	30.0
	必要性を感じる	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	動きの特性を理解できている	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	難しいと思う	26	86.7	4	13.3	7	77.8	2	22.2	11	100.0	0	0.0	8	80.0	2	20.0
6番	作品づくりに必要だと考える	28	93.3	2	6.7	8	88.9	1	11.1	11	100.0	0	0.0	9	90.0	1	10.0
	基本運動6番の動きは、身体づくりに役立つ	30	100.0	0	0.0	9	100.0	0	0.0	11	100.0	0	0.0	10	100.0	0	0.0
	基本運動6番を通して、心の在り方に変化がみられた	23	76.7	7	23.3	7	77.8	2	22.2	9	81.8	2	18.2	7	70.0	3	30.0
	正確に踊れていると思う	27	90.0	3	10.0	9	100.0	0	0.0	9	81.8	2	18.2	9	90.0	1	10.0
	将来、指導者になったら使用しようと思う	26	86.7	4	13.3	9	100.0	0	0.0	9	81.8	2	18.2	8	80.0	2	20.0
	今後も続けて基本運動6番を踊りたいと思う	27	90.0	3	10.0	9	100.0	0	0.0	10	90.9	0	9.1	8	80.0	2	20.0

注) ここでは数的尺度としての5段階評価ではなく、大きく Yes-No などのカテゴリーを重視したので4段階評価とした。

欠損値
N=1

表8 学年別の調査対象者の「基本運動第一課程」(1番～6番)の各曲に対する難易度

N=31		2年生		3年生		4年生		
		f	%	f	%	f	%	
各曲の中で 一番難しい と思う動き	1 番	脚の基礎運動	2	22.2%	2	16.7%	0	0.0%
		Body の運動	0	0.0%	2	16.7%	2	20.0%
		脱力運動	5	55.6%	4	△33.3%	6	60.0%
		無回答	2	22.2%	4	33.3%	2	20.0%
	2 番	振る運動	6	66.7%	2	△16.7%	6	60.0%
		回す運動	1	11.1%	3	25.0%	1	10.0%
		弾む運動	0	0.0%	3	25.0%	1	10.0%
		無回答	2	22.2%	4	33.3%	2	20.0%
	3 番	歩く運動	1	11.1%	1	8.3%	0	0.0%
		回旋運動	4	44.4%	5	41.7%	4	40.0%
		回転運動	1	11.1%	3	25.0%	4	40.0%
		無回答	3	33.3%	3	25.0%	2	20.0%
	4 番	波状運動・蛇動運動	5	55.6%	9	75.0%	5	50.0%
		振じる運動	2	22.2%	0	0.0%	1	10.0%
		腰の転移	1	11.1%	1	8.3%	2	20.0%
		無回答	1	11.1%	2	16.7%	2	20.0%
	5 番	リズムカルに跳ぶ運動	1	11.1%	1	8.3%	1	10.0%
		走る運動	2	22.2%	3	25.0%	1	10.0%
		大きなジャンプ	4	44.4%	6	50.0%	6	60.0%
		無回答	2	22.2%	2	16.7%	2	20.0%
	6 番	ワルツステップ各種	4	44.4%	1	8.3%	1	10.0%
		柔軟性運動	2	22.2%	1	8.3%	1	10.0%
		バランス系の運動	1	11.1%	8	66.7%	7	70.0%
		無回答	2	22.2%	2	16.7%	1	10.0%

※共通して高いもの…網掛け、グループで低いもの…△、減少・増加しているもの…○で表示

重の移し替えを体得したこの時期に、「振る運動」の難しさに直面したのだと考えられる。また、「回旋運動」についても、この時期に体幹の使い方を意識し始め、四肢の可動領域を拡げることにより注意し始めたからであるものと考えられる。

基本運動3番「回転運動」においては、経験年数2年～4年がグループとして高かった。ダンスの基礎・基本のテクニックとして、まず初めに練習する動きなので、このような結果に結びついたものと考えられる。

基本運動2番「回す運動」と6番「ワルツステップ各種」については、経験年数11年～18年がグループとして低かった。すなわち、この動きは順番を覚えれば、比較的早く習得できるので、経験が豊富なグループが「難しい」とは思わない結果であり、これらの運動や練習の特色と一致するものである。

これらの結果は、「基本運動」のメソッドの特性が各曲ごとに明確であることに加え、常に「基本運動」を

活用している部員のダンス経験年数により、習得の差が現れたものと考えられる。

2. 各曲に対する取り組みの状況及び、基本的な理解度について

基礎・基本については、動きの特性を理解した上で行うことが重要である。また、なぜその動きが必要なのかを認識して練習することが大切である。分析では、江口の基本運動は、踊るための身体づくりに充分役立ち、「基礎技術向上」「筋力アップ」「持久力」等が強化されると認識している者が多い結果であり、「忍耐力向上」「向上心」などメンタルな部分の強化にも役立つと自覚している者も多いという結果であった。また、「基本運動」に対して、必要性を感じている者は100%であり、全員が動きを理解して身体づくりに役立つと思っていることが示され、非常に高い意義を見出して前向きに取り組んでいることが示された。

表9 経験年数別の調査対象者の「基本運動第一課程」(1番～6番)の各曲に対する難易度

経験年数		2 ～ 4 年		5 ～10年		11～18年		
N=31		f	%	f	%	f	%	
各曲の中で 一番難しい と思う動き	1 番	脚の基礎運動	1	12.5%	1	8.3%	2	18.2%
		Body の運動	1	12.5%	2	16.7%	1	9.1%
		脱力運動	4	50.0%	6	50.0%	5	45.5%
		無回答	2	25.0%	3	25.0%	3	27.3%
	2 番	振る運動	3	37.5%	7	58.3%	4	36.4%
		回す運動	2	25.0%	2	16.7%	1	△9.1%
		弾む運動	1	12.5%	0	0.0%	3	27.3%
		無回答	2	25.0%	3	25.0%	3	27.3%
	3 番	歩く運動	0	0.0%	1	8.3%	1	9.1%
		回旋運動	2	25.0%	7	58.3%	4	36.4%
		回転運動	4	50.0%	2	16.7%	2	18.2%
		無回答	2	25.0%	2	16.7%	4	36.4%
	4 番	波状運動・蛇動運動	5	62.5%	7	58.3%	7	63.6%
		振じる運動	1	12.5%	2	16.7%	0	0.0%
		腰の転移	1	12.5%	1	8.3%	2	18.2%
		無回答	1	12.5%	2	16.7%	2	18.2%
	5 番	リズムカルに跳ぶ運動	1	12.5%	1	8.3%	1	9.1%
		走る運動	1	12.5%	3	25.0%	2	18.2%
		大きなジャンプ	4	50.0%	6	50.0%	6	54.5%
		無回答	2	25.0%	2	16.7%	2	18.2%
	6 番	ワルツステップ各種	2	25.0%	3	25.0%	1	△9.1%
		柔軟性運動	0	0.0%	3	25.0%	1	9.1%
		バランス系の運動	4	50.0%	5	41.7%	7	63.6%
		無回答	2	25.0%	1	8.3%	2	18.2%

注) 共通して高いもの…網掛け, グループで高いもの…○, グループで低いもの…△で表示

図4～6は、「基本運動」の必要性を更に明確にするために「非常に思う」の人数をグラフ化したものである。「必要性を感じるか」という問いに「非常に思う」と回答した者のみを取り上げて、傾向を見たところ(図4)、2年生は1番と3番、3年生は4番と6番が高く、4年生は全体的に低い結果となった。1番、3番は基本的な動きを集めているので、低学年は必要性を感じたのであろう。また、3年生は、4番と6番に必要性を感じていたが、江口ダンスの代表的な動きの波状運動、蛇動運動に興味を持って練習していたのではないと思われる。

同様に「身体づくりに役立つか」という問いに「非常に思う」と回答した者のみを取り上げて傾向を見たところ、3年生がどの項目も非常に高い値を示した(図5)。最も活躍学年といえる3年生だからこそ、このような意欲的な結果が示されたものと考えられる。「正確に踊れているか」という問いに対しては、自信がもて

ない傾向を示し、理解はできているが完璧に踊れていない、という自己に対しての厳しい振り返りがなされているものと考えられる。

これらの結果は、江口の基本運動に対して、部員の特性により、その必要性や理解の状況を示しているものと考えられる。踊り手としての部員の状況との関係を、十分に理解しておくことが必要であると考えられる。

3. 今後の指導の在り方や方向性について

指導者が学生を指導する際には、何処が理解できていて何処が不明確なのか、学生の現状を正確に掴み、理解させるための工夫が大切である。本研究の結果を活用して、部員達は納得をして練習することにより、更に効果が期待できるものである。

基本運動そのものが作品づくり(創作)に即、役立つというよりも創作をするための身体づくりに有効であると認識している者が多かったと考える。また、今

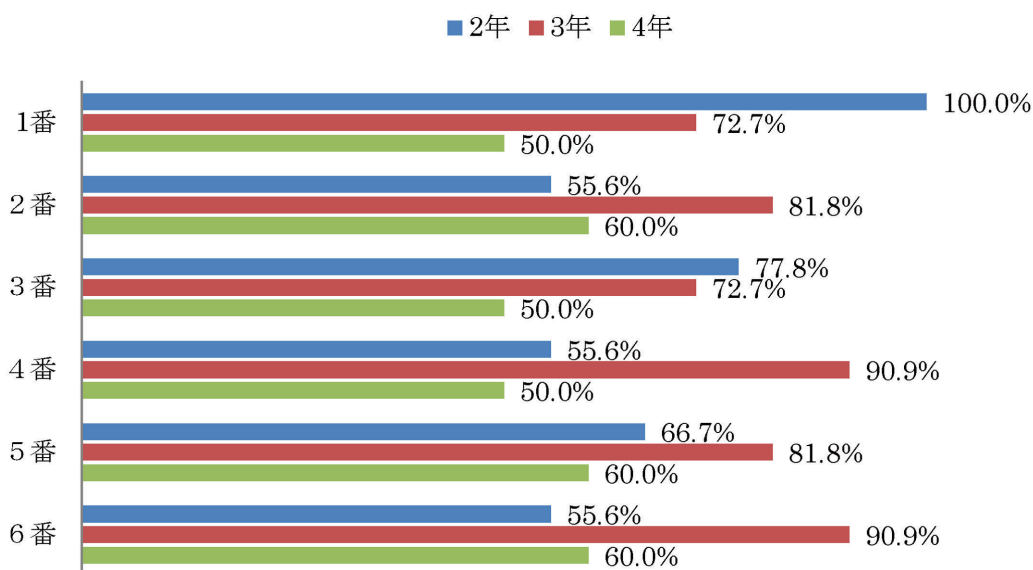


図4 学年別の基本運動第一課程についての必要性（「非常に思う」をピックアップ）

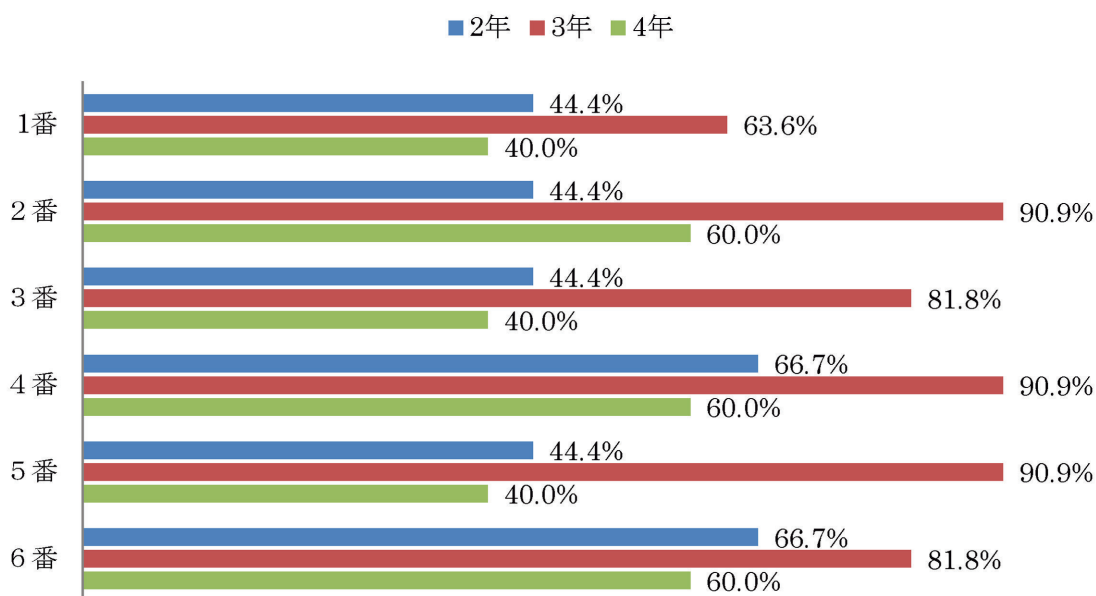


図5 学年別の基本運動第一課程の身体的効果（「非常に思う」をピックアップ）

後の基本運動の継続についても「今後も続けて基本運動を踊りたいと思う」は90%弱であった（図6）。日頃の基本運動の反復から、基本運動に理解が深まり、さらに基本運動に含まれていない新しい動きへの気づきが促されたものと推察することができる。学年ごとの分析結果からは、上級生になるに従いこれだけでは足りないと感じている者が多くなっているのは、部活動

における江口メソッドの経験が長いゆえの気づきと言えるのではないだろうか。

一方、指導者の立場からは、「積極性の向上」「演出力向上」についての意識も高まっていくことを願うが、この結果は、2年生と3年生は非常に高い値を示したが、4年生は半分以下となっており、4年生になると新しいものへの気づきや新たな必要性などが多くな

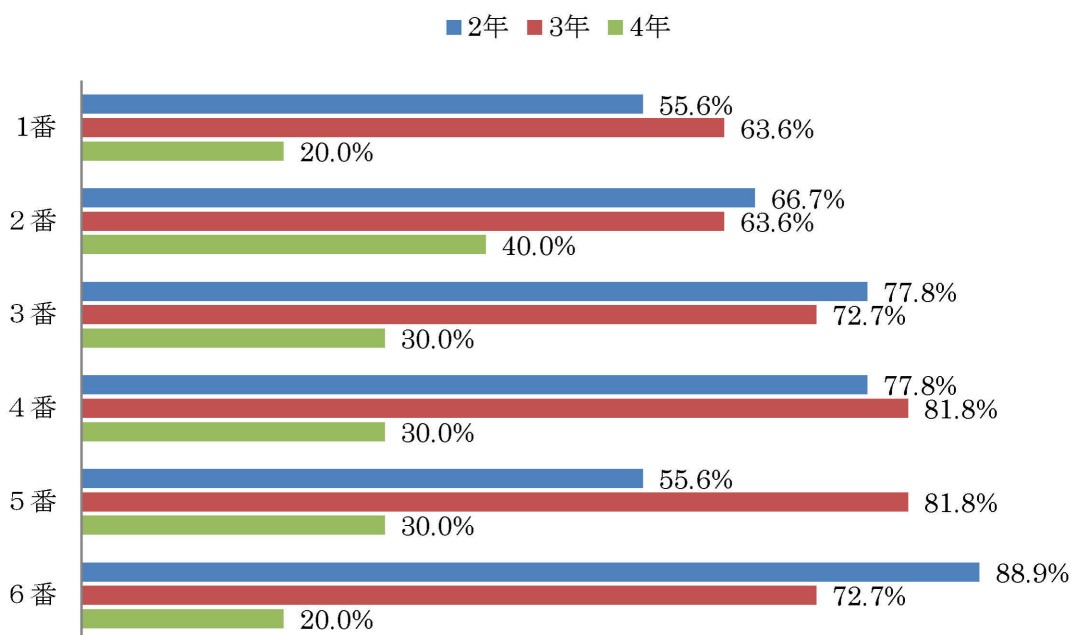


図6 学年別の基本運動第一課程の継続意思（「非常に思う」をピックアップ）

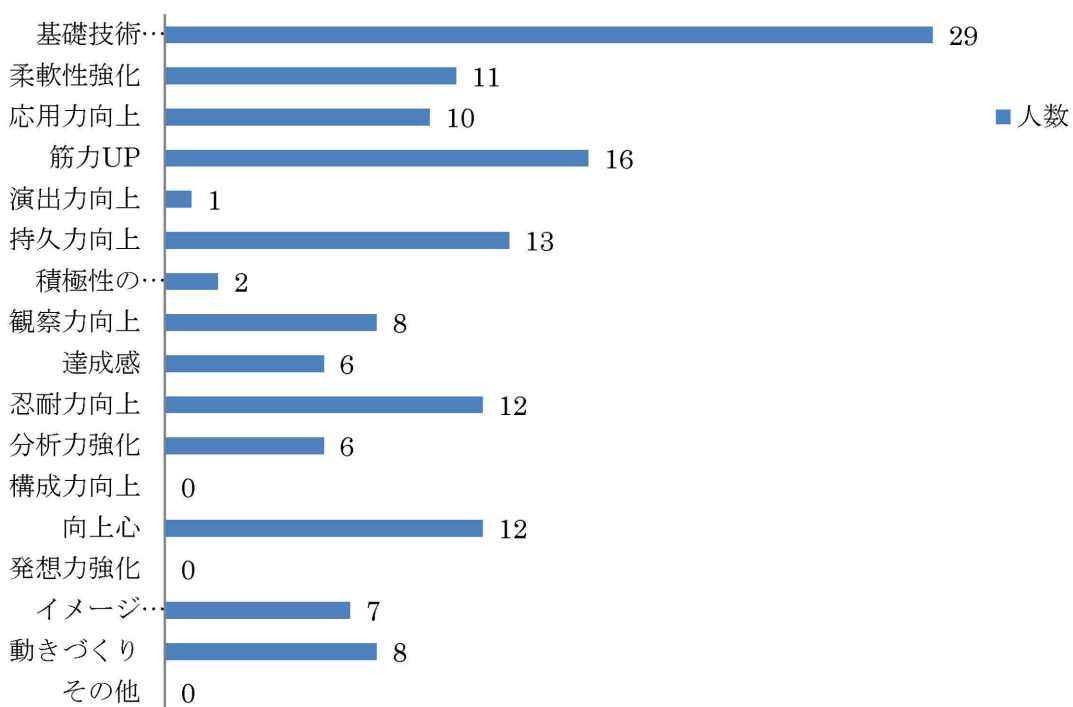


図7 「基本運動第一課程」を通して強化された能力

り、継続を強く思わない傾向を示しているようでもある(図7)。

本研究の結果を踏まえた上での指導者として、今後、江口の基本運動をどのように運用してゆけば良いかを常に思考していくことも、一つの使命であるものと考ええる。ダンスの基礎・基本としての江口の「基本運動」は、ダンスの基礎、特に身体づくり、基本的な動きの習得という面において極めて有用であると言える。今後も主軸として極めて有用であることには変わりがないが、部分的に足りない動きを模索し、足りない動きの補充またはアレンジをしていくことも大切であると考ええる。基礎・基本がマスターされているということは、動きが美しいばかりでなく、テクニックの向上も期待できる。また、運動学的にも効率が良いのでケガも少なく健康に良い。

モダンダンスの基礎・基本に関する分析的・実証的な研究は、まだ途に就いたばかりではあるが、基礎・基本の重要性に関する研究はモダンダンスにとどまらず、広く舞踊教育や芸術分野においても研究していく必要があるのではないだろうか。

V. 結 論

本研究では、現代舞踊の礎を築いたことで広く知られている舞踊家 江口隆哉の「基本運動第1課程」を取り上げ、彼のダンス観や指導理念に着目し、踊り手がこの基礎・基本をどのように習熟し、内面化しているのかを分析、検討すると共にその状況をふまえて今後の指導の在り方を考察した。

本研究の結果は、以下のように要約することができる。

1. モダンダンス部員の「基本運動第1課程」の基本的な習熟状況が明らかになった。
2. 「基本運動第1課程」の各曲に対する取組みの状況及び、理解度が明らかになった。
3. 上記1, 2の結果を踏まえて、今後の指導の在り方や方向性が明らかになった。

日頃のモダンダンスの指導や観察を通して、基礎・基本の在り方を見直す必要を感じてはいたが、本研究はその第一歩として、「基本運動」の実践者であり、踊り手である部員の側からの状況を数値化して分析・考察を試みたものである。改めて「基本運動」の習得状況の分析結果から、その有用性を再確認するとともに、「江口隆哉の基本運動」の今後のモダンダンスの指導に

活用できる部分が多く示唆される結果となった。

今後は、さらに幅広い対象者を加えて分析し、基本運動の指導及びモダンダンスの指導の重要なポイントの精度を高めていくことも必要であると考ええる。

VI. 参考文献

引用文献

- 1) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動1, 第2巻, 1号, p21-23
- 2) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動3, 第2巻, 3号, p21-23
- 3) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動4, 第2巻, 4号, p21-234
- 4) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動5, 第2巻, 5号, p29-31
- 5) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動6, 第2巻, 6号, p29-31
- 6) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動7, 第2巻, 7号, p25-27
- 7) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動10, 第2巻, 10号, p29-31
- 8) 江口隆哉, (1956)『現代舞踊』, 基本運動16, 第4巻, 2号, p20-23
- 9) 金井美三枝監修「一橋出版ビデオシリーズ ダンスシリーズ③ 体づくりのために～基本運動～指導のために」: 江口隆哉「現代舞踊基本運動」より
- 10) 松本千代栄 (2008)「松本千代栄撰集 3 人間発達と舞踊創作」p.101, 明治図書出版, 東京
- 11) R・L・マレイ: 松本千代栄, 佐藤康子訳 (1974)「ダンス学習法: 発達段階とダンス技術」p.272, 大修館書店, 東京

参考文献

- (1) A・ロックハート E・ピース: 松本千代栄・石黒節子訳 (1974)「ダンスの創作過程」p.1, 大修館書店, 東京
- (2) 赤木知雅, 池田瑞臣, 大芝信, 他 (1999)「江口隆哉が残したもの」(シンポジウム)
- (3) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動2, 第2巻, 2号, p18-20
- (4) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動8, 第2巻, 8号, p13-15
- (5) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動9, 第2巻, 9号, p29-31
- (6) 江口隆哉, (1954)『現代舞踊』, 基本運動11, 第2巻, 11号, p27-29
- (7) 江口隆哉, (1955)『現代舞踊』, 基本運動12, 第3巻, 2号, p32-33
- (8) 江口隆哉, (1955)『現代舞踊』, 基本運動13, 第3巻, 4号, p26-31

- (9) 江口隆哉, (1955)『現代舞踊』, 基本運動14, 第3巻, 6号, p28-31
- (10) 江口隆哉, (1955)『現代舞踊』, 基本運動15, 第3巻, 9号, p35-37
- (11) 江口隆哉, (1956)『現代舞踊』, 基本運動17, 第4巻, 3号, p24-27
- (12) 江口隆哉, (1956)『現代舞踊』, 基本運動18, 第4巻, 5号, p26-28
- (13) 江口隆哉, (1956)『現代舞踊』, 基本運動19, 第4巻, 6号, p22-24
- (14) 江口隆哉, (1956)『現代舞踊』, モダンダンスの基本運動第一課程その1・その2, 第4巻, 7号, p27-29
- (15) 江口隆哉, (1956)『現代舞踊』, モダンダンスの基本運動第一課程その3・その4, 第4巻, 8号, p24-29
- (16) 江口隆哉, (1956)『現代舞踊』, モダンダンスの基本運動第一課程その5・その6, 第4巻, 9号, p28-32
- (17) 江口隆哉, (1958)『現代舞踊』, 基本運動20, 第6巻, 7号, p24-25
- (18) 江口隆哉, (1968)『現代舞踊』, モダン・ダンスの基本運動(1)~(8), 第16巻
- (19) 江口隆哉, (1969)『現代舞踊』, モダン・ダンスの基本運動(9)~(17), 第17巻
- (20) 江口隆哉, (1970)『現代舞踊』, モダン・ダンスの基本運動(26), (29)~(30), 第18巻
- (21) 江口隆哉, (1971)『現代舞踊』, モダン・ダンスの基本運動(31)~(32), (35), (38), 第19巻
- (22) 江口隆哉, (1972)『現代舞踊』, モダン・ダンスの基本運動(41), (43), 第20巻
- (23) 江口隆哉 (1962)「続舞踊創作法」(67-76)
- (24) 江口隆哉 (1971)「舞踊創作法」株式会社カワイ楽譜, 東京
- (25) 江口隆哉 (1976-1977)「私の自叙伝」(1)~(6), ダンス・ワーク, Vol. 16-Vol. 21
- (26) 金井芙三枝, 西田堯, 花柳照奈, 他 (1999)「江口隆哉が残したもの」(シンポジウム) 舞踊学 (増刊 江口隆哉とドイツ舞踊, 批評研究の展開) p.89-91
- (27) 金井芙三枝, 島内敏子, 若松美黄 (2000) 江口隆哉100年祭記念「江口隆哉の業績と日本女子体育短期大学体育科舞踊専攻が日本のモダンダンスに果たした役割」
- (28) 桑原和美 (1982), 江口隆哉論, お茶の水女子大学大学院修士論文
- (29) 桑原和美 (1997)「表現講座動きと表現(5)江口隆哉—実際に結びつく舞踊創作法 (からだをみつめる)」女子体育: 39(9) p.35-36
- (30) 桑原和美 (1999)「江口隆哉とその周辺」(講演) 舞踊学 (増刊 江口隆哉とドイツ舞踊, 批評研究の展開)p.79-85
- (31) 桑原和美 (2001)「江口隆哉資料目録」日本女子体育大学
- (32) 坂本秀子 (2001)「金井芙三枝の舞踊活動の記録」
- (33) 桜井勤 (2011)「日本のモダンダンス—江口隆哉と宮操子—」, 「Scene」夏 第82号 p.16
- (34) 二階堂あき子 (2003)「江口隆哉に影響を及ぼした M. ヴィグマンの“Gestaltung”考」お茶の水大学大学院 修士論文
- (35) 西宮安一郎 (1989), 江口隆哉と芸術年代史, 東京新聞出版局 中日新聞東京本社
- (36) 松本千代栄 (2008)「松本千代栄撰集 3 人間発達と舞踊創作」p.154-157, 204-207, 明治図書出版, 東京
- (37) 松本千代栄 (2008)「松本千代栄撰集 4 舞踊発想と音楽」p.241, 明治図書出版, 東京
- (38) 松田岩男総監修, 松本千代栄監修・編集 (1992)「ダンスの教育学」第3巻: 創作ダンスの基本的段, 株式会社日本教育書籍
- (39) 松田岩男総監修, 松本千代栄監修・編集 (1992)「ダンスの教育学」第4巻: 創作ダンスの発展的段階, 株式会社日本教育書籍
- (40) 光安知佳子 (2011)「モダンダンスにおける身体づくりに関する一考察—江口隆哉の基本運動をとりあげて—」日本女子体育大学大学院 修士論文
- (41) 吉田悠樹彦 (2009)「江口隆哉とその現代性」, danceart No. 31 p. 7

(平成25年9月10日受付)
(平成25年12月18日受理)